

2021年7月18日（日）

主 題：「大切なことを思い起してください」

—最も大切なこと—

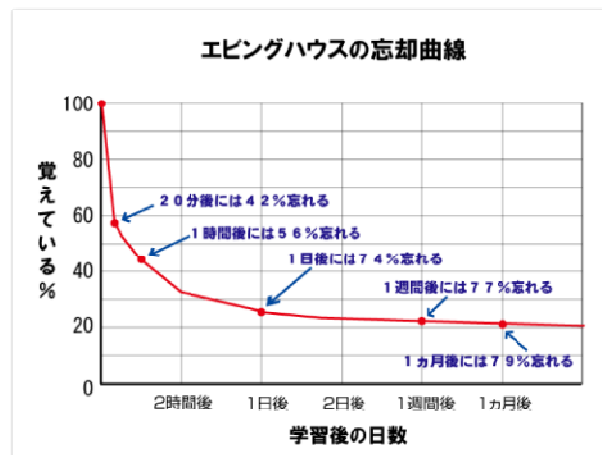
テキスト：第2ペテロの手紙1章12－15節

## はじめに

- ・「人間は忘れる生き物である」と言われますが、最近私は物忘れが多くあります。大切なことを聞いていますが、しかし時間の経過に従い、次第に忘れてしまうことが多々あります。
- ・ドイツの心理学者 **Herman Ebbinghaus** 博士は、人間の「物忘れ」を研究し、「エビングハウスの忘却曲線」(The Forgetting Curve) を発表しました。
- ・それによれば人間は；

20分後に 42%忘れる  
 1時間後に 56%忘れる  
 1日後に 67%忘れる  
 1週間後に 75%忘れる  
 1か月後に 79%忘れる

- ・忘れては困ることがありますが、逆に忘れることによって生命維持されることもあります。仮に何も忘れない人がいるとすれば、その人の頭は情報過多でパンクしてしまうことでしょう。
- ・しかし、大切なことを忘れては困ります。日本の政治家が国会で、野党からの追求を受けて「記憶にございません」という返答が、ヒットしたことがありました。本当に大切なこと、重要なことは忘れてはいけません。



- ・ところで、ペテロは離散したユダヤ人クリスチャンに対して、次のように述べました。  
 1:15 ですから、ぜひとも、私が去った後いつでも、あなたがたがこれらのことを思い起こせるようにしておきたいのです。

彼は今日のテキストで「思い起こさせる」という表現を3度（12, 13, 15節）用いています。では、いったい彼は何を「思い起こさせる」ことを願ったのでしょうか？ 2点

## 大切なポイント

### 1. 永遠のいのちを受け継ぐ希望

#### 1) ペテロの自己認識

- ・彼は2つのことを認識していました。

① 1:13 それを思い起こさせて、あなたがたを奮い立たせることを、私は地上の幕屋にいるかぎり、なすべきだと思っています。

「幕屋」とは移動式のテントのようなもので、旅人が寄留する際に用いました。しかし、ここでペテロが「地上の幕屋」と表現するとき、自分の肉体のことを述べています。私たちの生涯は

本当に束の間、この地上に寄留しているにすぎません。

- ・そこは仮の宿にすぎません。永遠に住む本家が他にあるのです。そしてもう一つ。

② 1:14 私たちの主イエス・キリストが示してくださったように、私はこの幕屋を間もなく脱ぎ捨てることを知っています。

彼はやがて、自分の死が来ることを認識していたことです。

- ・パウロはピリピ人への手紙で次のように述べました。

3:20 しかし、私たちの国籍は天にあります。

- ・ペテロは述べました。

1:11 このようにして、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国に入る恵みを、豊かに与えられるのです。

- ・第一ペテロの手紙で、ペテロは次のようにも述べました。

1:4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

- ・私たちの主イエスは十字架の死を遂げられた後、三日目によみがえられたように、私たちにはやがて死を乗り越えて、決して尽きることのない永遠のいのちを受け継ぐ希望が示されています。

- ・皆さん。ペテロは永遠の住まいを思い浮かべ、現実から逃げていたのではありません。いいえ、神がお示しくださった希望を見つめつつ、自分の生涯の終わりを受け止めていました。希望を見つめたからこそ、自分の肉体の衰えや弱さ、不完全さと向き合うことができました。これらが彼が認識していたことでした。

- ・テントも使い続ければ、皺（しわ）ができますし、擦り切れて穴も空きます。しかしそれは一時的であり、私たちはやがて「朽ちることも、汚れることも、消えていくこともない栄光のからだ」を受け継ぐことになります。

- ・神を知らない多くの人々は、この世がすべてであると考えています。ですから一生懸命働き、人生を楽しむために働き、時間、力、富等を費やしています。しかし、それが全てでしょうか。もしも、この世がすべてであるならば、少なくとも次のような問題が生じると考えられます。

① 世にある様々なものに固執することになる。

必死になって、そのためにお金もかけるでしょう。そしていろいろと守らなければならないものが出てきます。

もしこの世がすべてであるならば、

② 理不尽なことが起こると、希望が見えなくなる。

人間はそうように試練に出会うと、希望を失ってしまいます。

もしこの世がすべてであるならば、

③ この世の人生の目的を安易に設定してしまう。

その時、その場で楽しめばよい、それで満足すべきあり他のことは考えないという生き方になります。

## 2) 聖書の教え

- ・しかし聖書はそうのように教えてはいません。私たちに許されている地上の歩みは、神の国に直結したものであると教えています。ですから、この地上の歩みは天の御国に迎え入れられるための

備えの期間です。そこまでは、私たちの足りなさから生まれる悩み、苦しみなどの試練があります。しかしそこで私たちは練られ、整えられ、霊的成長が与えられています。それが人格的成長となります。私たちはやがて、主とお会いする備えをするものです。

- ・主イエスは次のようなたとえを話されました。

マタイの福音書 22章

22:2 「天の御国は、自分の息子のために、結婚の披露宴を催した王にたとえることができます。

22:3 王は披露宴に招待した客を呼びにしもべたちを遣わしたが、彼らは来ようとしなかった。

22:4 それで再び、次のように言って別のしもべたちを遣わした。『招待した客にこう言いなさい。「私は食事を用意しました。私の雄牛や肥えた家畜を屠り、何もかも整いました。どうぞ披露宴においでください」と。』

22:5 ところが彼らは気にもかけず、ある者は自分の畑に、別の者は自分の商売に出て行き、

22:6 残りの者たちは、王のしもべたちを捕まえて侮辱し、殺してしまった。

22:7 王は怒って軍隊を送り、その人殺しどもを滅ぼして、彼らの町を焼き払った。

22:8 それから王はしもべたちに言った。『披露宴の用意はできているが、招待した人たちはふさわしくなかった。

22:9 だから大通りに行って、出会った人をみな披露宴に招きなさい。』

22:10 しもべたちは通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めたので、披露宴は客でいっぱいになった。

22:11 王が客たちを見ようとして入って来ると、そこに婚礼の礼服を着ていない人が一人いた。

22:12 王はその人に言った。『友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』しかし、彼は黙っていた。

22:13 そこで、王は召使いたちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇に放り出せ。この男はそこで泣いて歯ぎしりすることになる。』

22:14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないのです。」

- ・主イエスの教えには、優しさとともに厳しさもあります。そしてその厳しさは愛の裏返しでもあります。本当に弟子たちの行く末を案ずるゆえに語られた厳しいメッセージでした。

22:12 王はその人に言った。『友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』しかし、彼は黙っていた。

- ・やがて、天の御国の入り口で、私たちの罪を担い、十字架で死んでくださったお方と対面するとき、『友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』と言われることがないように、「今」許されている地上の生涯を、永遠の御国を待ち望む者として、誠実に歩ませていただきたく願います。

- ・ペテロは離散したユダヤ人クリスチャンに対して、生けるまことの神を信じる者は、永遠のいのちを受け継ぐ希望があることを、忘れないで、思い起こすことを勧めました。

- ・いかがでしょうか？ 私たちも大切なことを忘れてはいないでしょうか。

あの Hermann Ebbinghaus の「忘却曲線」を思い出してください。人間は1日後には、74% 忘れます。もう何日間、経過したでしょうか。

- ・ペテロはもう一つ、思い起こすことを勧めました。

## 2. 聖徒に一番大切なことは何か

## 1) ペテロの視点

- ・ペテロはこのとき、地上の生涯の終わりを見つめていました（視点）。言い伝えによれば、ペテロはこの後に捕らえられて、見せしめとして逆さ十字架に架けられて殉教したとされています。
- ・彼の自分に許された地上の生涯は、ほんのわずかしかなかった残されていませんでした。そして、そのわずかな時間を惜しむようにしてこの手紙を書き、最後の務めを果たそうとしていました。

1:12 ですから、あなたがたがこれらのことをすでに知り、与えられた真理に堅く立っているとはいえ、私はあなたがたに、それをいつも思い起こさせるつもりです。

1:13 それを思い起こさせて、あなたがたを奮い立たせることを、私は地上の幕屋にいるかぎり、なすべきだと思っています。

1:14 私たちの主イエス・キリストが示してくださったように、私はこの幕屋を間もなく脱ぎ捨てることを知っています。

1:15 ですから、ぜひとも、私が去った後いつでも、あなたがたがこれらのことを思い起こせるようにしておきたいのです。

- ・この手紙は、今生きている時だけでなく、やがてペテロが去った後も、彼らの信仰が奮いたたせることが願いでした。聖書の真理に固く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励むようにと書き残しました。
- ・ペテロはイエスによって召され、みことばを伝える器となりました。

4:19 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」  
マタイ

- ・彼は自分に委ねられた務めに最後まで誠実であろうと願いました。しかしその彼も年老いて、地上の幕屋を脱ぎ捨てる時が近づいて来ました。彼は主イエスのことばに従順でありたいと願っていました。「人間をとる漁師にしてあげよう。」しかし、その前に「わたしについて来なさい。」とあります。彼は晩年になり、自分の人生を振り返ったことに違いありません。

## 2) ペテロの務め

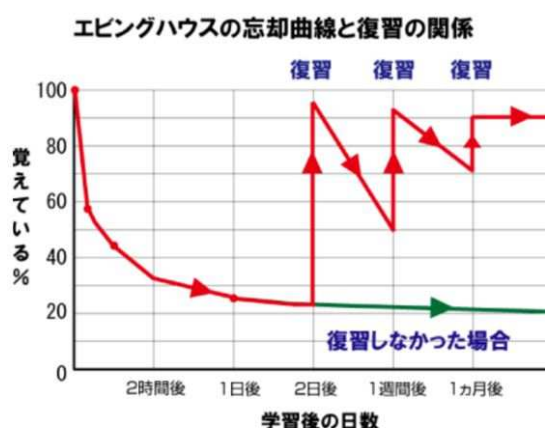
- ・ペテロの務めは、

1:12 ですから、あなたがたがこれらのことをすでに知り、与えられた真理に堅く立っているとはいえ、私はあなたがたに、それをいつも思い起こさせるつもりです。

- ・ペテロがいつも思い起したことは、語りつづけることでした。繰り返し語り、思い起こさせることで、彼らの信仰を奮い立たせることがペテロの務めでした。同時にそれは、聖徒たちも忍耐を持って聞き続けることでした。しかし、このことばは私たちにとっても語られています。

{例 話}

- ・ある日本の学習塾（ユニ・スタディ Hermann Ebbinghaus の「忘却曲線」にした。それによれば、次のような結果
- ・2日後に復習を入れると、76%の（24%記憶）のが、復習によって5%の記憶）にまでアップ。
- ・1週間後に復習すると50%忘れで（約7%（約93%の



一) が、この線」を実験しました。忘れであった約5%（約93%）であった（50%記憶）にアップ。

- ・1か月後に復習を入れると、70%忘れていた記憶が10%にアップ（90%記憶）
  - ・それ以降は平行線を示しました。
- 皆さん。この実験は、復習の効果を提示したもので、ある程度参考になりますね。

- ・人は忘れやすく、またその本質を見失いやすいものです。キリスト者であっても、時には異教的な生活環境の中で、緊張感を失いやすいものです。世と妥協して、福音の証し人としての使命を果たさなくなる危険があります。不信仰の中で、眠りこけてしまう危険もあります。
- ・ですから、私たちも主がお語りくださるおことばを、何度も復習することは大切なことです。

### 3) 私たちの視点と務め

- ・ペテロは自分の弱さをよく分かっていました。彼は主イエスを3度否んだ弟子でした。なんと情けない自分であったか十分、知っていました。彼は涙を流して自分の情けなさを悔いた人でした。
- ・しかし復活された主イエスは、ガリラヤ湖畔でペテロに現れて、「あなたはわたしを愛していますか」と、3度尋ねられました。3度のイエスの問いに対してのペテロの応答は次のようでした。

ヨハネの福音書 21 章

21:17 イエスは三度目もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

- ・ペテロはこんな弱い自分に、主イエスは「わたしの羊を飼いなさい」という大切な務めを託され、言葉が詰まったことと思います。復活後の主イエスがペテロに尋ねられたことばは、「あなたはわたしを愛していますか」でした。イエスがペテロに3度尋ねられた「3」という数字は、聖書では完全数を示しています。
- ・彼はこの質問を受けた時、自分の弱さから、とても「愛しています」と即答できませんでした。ペテロは、イエスが三度目も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなただを愛していることを知っておられます。」
- ・これが、精いっぱい返答でした。彼はまことに主イエスにお出会いしたからでした。イエスを愛すること、それはイエスの羊を飼う（牧会する）ことであり、イエス・キリストを宣べ伝えることであると悟りました。これが自分に託された務めであると、はっきりと覚えたのでした。
- ・いかがでしょうか？ 私たちの人生は・・・？ イエスは「あなたはわたしを愛していますか」と尋ねておられます。私たちはどのように、返答するのでしょうか。

## まとめ

主 題：「大切なことを思い起してください」

—もっとも大切なこと—

- ・今日も、主は私たちに大切なことをお語りくださいました。私たちは何を学んだのでしょうか？  
Hermann Ebbinghaus の「忘却曲線」のように、忘れること多々あるものです。そこで復習という学習が大切であることを学びました。
- ・私たちはどう生きるべきでしょうか。2点
  1. 「天の御国」へ向かう人生を忠実に歩むこと  
神を愛し、神を恐れ、神を敬い、神の恵みを受けて感謝する生活です。
  2. コンパスで（聖書）に従い正しく歩むこと  
常に復習が必要です。神のみことばを、繰り返し読み、繰り返し祈ること、そして主の指示をいただいて歩むことです。

\* God bless you!